

飯南町への想い

飯南町へ住んで

飯南町真木 澁谷 亜希

飯南町に来て、丸五年が経ちました。

初めてこの町に来たときは、今まで行ったスキー場よりもすごい雪に驚きましたが、住めるのかなという不安はありませんでした。

大阪に居たときは四季を感じることもなく、食べ物の旬も分からずに暮らしていたので、こちらに来て、春になるとウグイスが鳴き、夏はクーラー要らずの涼しさ、秋は食べ物美味しく、冬は雪と季節を感じる事が出来て感激です。

夜になると空に沢山の星はじめて天の川を見ました。しかし、来た当初には、



知り合いもいないこの町の方言が理解できず、まるで違う

国に来たようで少し寂しい感じもしました。でも、この町の方々は、

気軽に声をかけてくださり、自然に輪のなかに溶け込んでいきました。

そのうちに、子どもが保育所で方言を覚えて帰り、わたしも知らず知らずのうちに話している自分に気がつきました。

そして沢山の友人ができ、姉妹以上の親しい友人もできました。(今では関西弁が出てこないほどです。)

三年前から春と秋の二回、奥真木地区にある「農事組合法人 眞栄グループ」のみなさんと一緒に大阪、京都、横浜、広島などから多くの人に呼びかけて田舎体験「ふるさと創造の集い」を行っています。

リピーターの方も多いので、この時は家族が帰って来るよつな感じがしています。来られた方はこの町の温



地域の皆さんと

かさ、自然の豊かさを満喫して帰られていきます。

私はこの町に来て沢山の人が出会い、支えられ、励まされ、見守っていただき、本当に人の温かさを感じることができ、感謝の気持ち一杯です。

今では、この町が私たちの故郷です。

昨今の世相を考えると、私たちのとった大きな決断は正しかったのだと思うのは、確信となり、少しでも多くの人々にこの思いを伝えたくてなりません。

この町の良さ、温かさがいつまでも変わらず大切に受け継がれていくことを心から願っています。

一億円を目指して

会員七十名の青空市「ブナの里」は産地偽装が問題視されるなか、地元産で「新鮮・安心・安全・おいしさ」をモットーに売り上げを伸ばし、夢であった年間売り上げ一億円も手に届くところにきました。

特にブナの里の特徴は新鮮野菜を中心に苗物やグループ等中心とした農産物加工品の多さ。また、珍しい山野草等魅力ある青空市です。

この市に携わる約一八〇人の平均売り上げは五十万円余になり、生きがいと健康のもととなっています。

今年も、一億円を目指し頑張ります。



ぶなの里 地元農産物の直売で賑わう

編集後記

近年の原油高騰の影響は、あらゆる分野に及び、世界的食料危機を招く事態となってきました。

厳しい農業情勢が続く日本においても、政財界を含め食料自給率の向上が叫ばれるようになってきました。これを追い風と見るべきか、迷うところです。

畜産の飼料高騰は危機的状況といわれます。水稲中心の我が町にとっても肥料等資材の値上げは、農家経済への更なる打撃となっています。

このようななか、六月議会が開かれ、長年の懸案でありました琴引きスキー場は、町内企業による新たな指定管理会社による運営が開始されることとなりました。地元企業への就労の場が狭まるなか、地域の人々に愛される「スキー場」になることを祈るものであります。

早急な財政再建と地場産業の創出が求められる今こそ、町民の英知を集結しようではありませんか。

議会広報編集委員会

〈長島 正一〉